

大草谷津田いきものの里 自然観察会

冬のバードウォッチングを楽しもう

木下順次（千葉市）

日 時：2020年1月19日（日）10時30分～12時 天候：晴

参加者：大人14名 子ども4名

担当指導員：木下順次・藤田英忠

昨年末より暖冬気味で推移してきた令和2年最初の観察会だったが、風のない暖かな観察会日和の一日となった。大草に来るのは初めてという参加者が比較的多かった。

昨年の台風以来ずいぶんと片付けは進んだものの、とりあえず園路を廻るのに支障となる倒木を処理しただけの園内は依然荒れた状態のままで、たぶんこれ以上の整理はしないものと思われる。以前の様子を知る人にとっても、初めての方にとっても、時として脅威となる自然の力のすさまじさを感じるであろう景色だ。ただ見方を変えると、光や風などの環境変化が、新たな生態系への遷移の姿を我々に見せてくれるという機会でもあり、それはそれで興味深いことではあるが…。

環境が変わったせいかどうか、荒れたスギ林を進むとすぐに2羽のヤマガラがしきりと地鳴きをしているし、メジロも枝間を飛び交っていて、昨年までと少し様子が違う。スギ林を抜け休耕地に出てみると、ツグミやシロハラなどがガサゴソとエサを探しているようだ。目立ったカラ類の混群は最後まで出会えなかつたが、所々で鳴き交わすコゲラやエナガ・シジュウカラなどを、落葉樹の枝間に観察することができた。

前日までの雨が溜まり、ぬかるんだ田んぼでは、ダイサギが水面に反射する陽光を浴びながらエサを求めて静かに歩いている。ハンノキの枝にはモズの♀が枝上から地面を狙いながらじっとしている。ともにエサ探しに夢中であり、ほかにも様々な鳥の採餌行動を観察できる良い機会であった。そういうえば、直前の下見の時には、大草では珍しいと思うのだが カワセミが同じように枝上から水路の餌を狙っている場面にも出くわした。



帰りは下ノ畑に上がり、広葉樹林と竹林の中をウグイスやアオジの地鳴きを聴きながら進んだ。

一部の参加者は、上空を飛ぶドローンと、そのドローンを攻撃するかのようにオオタカがドローン近くを飛翔し離れて行ったところに行き会ったようだ。青い大空にドローンとオオタカのなんとも言えない光景だったとのこと。

アカガエルの卵塊が早くも見つかり、気候変動の影響もいよいよ身近に迫っているのだろうか…。

《本日観察した野鳥》

ダイサギ、オオタカ、コゲラ、モズ、ハシブトカラス、シジュウカラ、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジ、（カワセミ、カシラダカ）の17(19)種 ※()内は下見で観察